

# PICK UP MOVIE

## 『帰れない山』

[2022年/イタリア・ベルギー・フランス/イタリア語  
/147分]

監督・脚本：フェリックス・ヴァン・ヒュルニンゲン  
& シャルロット・ファンデルメールシュ  
撮影：ルーベン・インペンス

© 2022 WILDSIDE S.R.L. - RUFUS BV - MENUETTO BV -  
PYRAMIDE PRODUCTIONS SAS - VISION DISTRIBUTION S.P.A.

## 山と対話しつつ生きる人々

イタリアの北端にそびえる、アルプス山脈で2番目に高いモンテローザ。その山麓の村に12歳の少年ピエトロが夏を過ごすためにやってきて、同じ年の村の少年ブルーノに出会う。光あふれる草原を駆け回る2人の姿は、遊びに没入する子供時代の恍惚感を蘇らせてくれる。

ピエトロの父ジョヴァンニは都会で働く実直な技術者で、短い休暇を取って山に登るのを楽しみにしていた。ピエトロとブルーノを、村人さえめったに行こうとしない氷河へ危険を冒して連れて行く。少年たちの心に、100年以上の冬の記憶を蓄えている氷河の神秘や、険しく雄大な山々の姿は深く刻み込まれた。この出来事こそが、その後べつべつの人生をたどった2人を結びつけていたと言える。だが一方で、山との向き合い方の違いが2人を別けたとも言えそうだ。

30歳を過ぎ、ジョヴァンニの死去を機に2人は山で再会する。ピエトロは思春期に父の堅実な生き方に反抗して断絶状態のままだった。ピエトロには、山に触発された超俗への憧れがあったのかもしれない。一方ブルーノは、幼い時から父は出稼ぎで不在のため、叔父の牧畜を手伝い、山の草原で暮らしてきた。ピエトロのように青春時代の試行錯誤などする余裕もなく、思春期も待たずに大人になることを強いられたのだ。そんな時に会ったジョヴァンニを、ブルーノは慕い続け、彼の山への思いを引き継ぐ覚悟さえ決めていた。再会した2人は、ジョヴァンニの思い出をたどりつつ、懐かしい子供時代の親密さを取り戻すかに見えたが、それはかなわなかった。なぜだろうか。

ブルーノは、生まれ育った山に全幅の信頼を寄せていた。それは夏だけを山で過ごしていたピエトロとは違い、厳しい冬を過ごしてこそ生まれるものだ。山から生きるに足るだけの恵みももらい、山に寄り添っていれば充足できる。そんな山と一体化するようなブルーノの生き方は、社会とは折り合えず、ピエトロにも理解されない。

山は悠久の歴史を刻みこんでそびえ立つ。その山と対話しつつ生きる人は、深い孤独を抱えながら各々が自分らしい生を築く。それはまた山に記憶されて、誰かへと引き継がれていく。山と人が紡ぎ出す、静かな感動を呼ぶ物語だ。

プロフィール

### 田村志津枝

：ノンフィクション作家。一方で大学時代から自主上映や映画制作などに関わってきた。1977年にファスピンダーやヴェンダースなどのニュー・ジャーマン・シネマを日本に初めて輸入、上映。1983年からホウシャオジエンやエドワード・ヤンなどの台湾ニューシネマ作品を日本に紹介し、その後の普及への道を開いた。



6/24~